

令和4年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 住田町社会福祉協議会アールス指定通所介護事業所

施種種別	通所介護
定員	35名
開設日	2000年
所在地	岩手県住田町

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・業務アドバイザーと対話により課題間の整理、仮設検討
- ・プロジェクトチーム組成（事業所内での人選）
- ・プロジェクトリーダーから、全体キックオフ・取組宣言・全スタッフへ周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・ケアパレットを使用できるのは半数以下（記録する人10人、ケアパレット活用組は4人）
- ・特定の若い職員が活用し、年配の職員は触らない。
- ・音声入力を活用できている職員は便利だと話している。

脱衣の際に皮膚状態・軟膏塗布をケアパレットの音声入力で入力し活用できる人を増やす。

手順03

実行計画を立てよう

活用したテクノロジー

NDソフトウェア
ケアパレット

脱衣の際に皮膚状態・軟膏塗布をケアパレットの音声入力で入力し活用できる人を増やす。

1

記録の洗い出し

- 記録の5Sシート作成。
- 各業務のアナログ部分、テクノロジー導入部分について洗い出した。

2

手順書の作成

- ケアパレットの脱衣における音声入力の手順書を作成する。

3

その他

- 現状把握アンケート、各種評価の実施。
- 現場との対話、プロジェクトチーム内での対話。内省。

手順04

改善活動に取り組もう

活用したテクノロジー
NDソフトウェア
ケアパレット

～工夫した点～

脱衣の際に皮膚状態・軟膏塗布をケアパレットの音声入力で入力し活用できる人を増やす。

1

記録の洗い出し

- ケアパレットをまず、導入して活用できそうな業務、項目について考えた。

2

手順書の作成

- ログイン画面からの街頭利用者について音声入力できるような手順の作成。
- 手入力したい場合の手順も含めた。

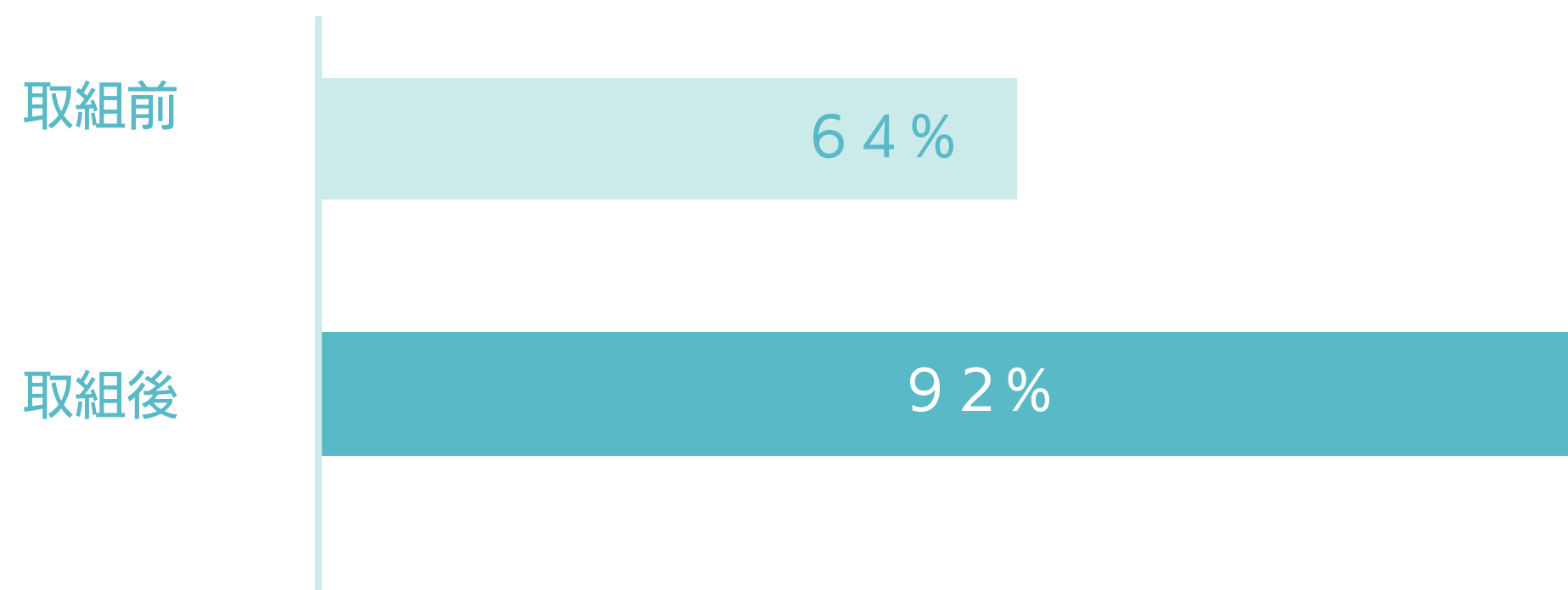
3

その他

手順05

改善活動を振り返ろう

今後もケアパレットを使っていきたいか



28%
アップ

使ってみると、
核よりも音声入
力するほうが早
いと思った。

苦手だと思って
いたことでも、
触ってみれば出
来るということ
がわかった。

- ・ 抵抗感が減った人が64%
- ・ 前よりもケアパレットに触ってみようと思った人が67%

手順06

実行計画を練り直そう

得た学び、感じたこと

- 業務全体の確認により、課題が見えた。
- 全体的話し合いではなかなか意見が出ないが、それぞれが仕事に対しての考えをもっている。



- 働く職員自身が、ここで働いてよかったと思える環境をつくる。
- チームとしてより良いサービスを提供する。